

利根川（群馬県）

長田 彩湖

利根川は群馬県北部から関東平野貫いて千葉県銚子市で太平洋にそそぐ大きな長い川です。一都五県にまたがる利根川はその場所によって違う表情を持つ川だと言えるでしょう。私にとっての利根川は比較的上流にあたる群馬県前橋市の県庁付近になります。上流ということもあってか、水はいつも比較的きれいで、よく休日になると親子連れで釣りをしている光景や、川沿いの野球場では少年野球をしている姿や、子供連れの親子が川の近くで



遊んでいる姿を見ることができます。利根川付近には公園などの施設が多くあるため人が多く集いますが、管理が行き届いているのか、マナーがよいのかはわかりませんが、たいがい川のまわりはきれいにされていて、市民の憩いの場になっています。桜が咲くころには川の近くでお花見があり、夏には釣りやバーベキュー、花火大会、秋には紅葉、冬には周りが見えなくなり雪景色になり四季折々さまざまな表情をみせます。

職場が橋を渡った先にあったので、ほぼ毎日利根川を見て通勤していました。徒歩で通っていたので、利根大橋という大きな橋の歩道をゆっくりと歩きながら利根川をみて、赤城山をみて、青くひらけた空をみて、きれいだなあと感じていました。そして季節や天候の移り変わりの変化を楽しんでいました。大雨が降ったときには、川が黒くにごったように見え、逆に晴れた日には、川がキラキラしていて眩しく輝いているように見え、ときには真っ白なシラサギや鴨たちが遊んでいる姿があり、私にとって癒しの利根川でした。そんな親しみ深い利根川ですが私はとても利根川を恐ろしく感じたことがあります。それは台風が上陸していたときだったのですが、水位が上がって、いつもは川の利根川が大きな深く暗い池のように見えました。いつもであれば眼下にある利根川が視線の先まで真っ黒な水で覆われていて、公園も野球場も広場もすべて川にしずんでいました。そのときも歩いていたので圧倒的な水量で飲み込まれそうな利根川の間を橋で渡るのをとても怖く恐ろしく感じ、急いで渡りきってほっとした思いがあります。翌日行くと、適切に管理されているのか、ほぼ元通りに戻っていて、いつもの利根川でした。管理されている川とはいっても、やはり自然は時に怖い表情をみせるものだと思います。私は群馬県出身ではないため、生まれも育ちも群馬の友人に利根川について聞いてみたところ、昔も今も印

象として特に変わっていないとのことでした。県庁所在地にもかかわらず未だに釣りができて、水質も比較的良い川として、人々の生活を支えていたようです。しかし時には台風や豪雨などの影響によって、水位があがって川付近の駐車場で車が流されるなどの被害があるとのことでした。憩いや癒しだけではない利根川の一面がそこにはあります。

利根川のことをインターネットで調べると有名な川だけあって、さまざまな情報がありました。主要なものとしては、ウィキペディアと利根川河川事務所（上流・下流それぞれ）がありました。ウィキペディアには利根川の地理、歴史、利用法などが細かく記されており、利根川は全長322メートル、信濃川に次いで日本第二位の長さを誇る川で、北は群馬県みなかみ町から始まり、関東平野を抜けて太平洋へとたどり着く長い川で都五県にまたがり、面積としては1万6840km²と日本最大の川になるそうです。利根川河川事務所には上流・下流の二つがあり、私は上流に親しみがあるので、上流のウェブサイトを参照しました。そこには最新の利根川の災害状況や利根川についての基本情報、市民との利根川とのふれあいを持つ場の提供などについての情報がありました。大きな川だけあって関東の多くの人々の関心の高さがうかがえる内容となっていました。

利根川は別名“坂東太郎”と呼ばれています。私は群馬県に移り住んでからはじめて知りました。まるで川を人名のように呼ぶ、その感覚に初めは戸惑いを覚えました、次第に慣れ、そして川をそのように親しみをこめて呼ぶほどに、人々は利根川とともにあるという実感があるのだなと感じました。前橋市から少し車で北へ行くと利根川沿いに“北橋温泉—ばんどうの湯”という温泉施設があります。そこは戦国時代の箱田城跡隣の高台にあり、利根川の流れをみながらゆっくり温泉につかれるという、すばらしい温泉施設です。しかもここは町営温泉なので、利用料金も格安で地元の人が集う温泉です。私は温泉が大好きなので休日になるとよく通っていました。その温泉施設の掲示板には坂東太郎(利根川)についての情報があり、そこにこう書いてあります。“源泉から見下ろす風景は雄大な利根の流れ、坂東太郎がゆったりと静かに流れています。この川は全国有数な川として、首都圏の貴重な水源とともに産業の発展に欠かすことのできない自然の宝物です。また、ここから見る風景は上毛三山（赤城山・榛名山・妙義山）をはじめ、遙かな山並みが自然のパノラマを作り出し、眺める人の心を和ませてくれます。坂東橋をはじめ、この地域には坂東という名が多く見受けられます。こうしたことから、最もふさわしい源泉名として「ばんどうの湯」に決まりました。” 実際この付近の地名や説明には坂東という名称が多く使われていて、市民の中には利根川と呼ばず、坂東川、坂東さんと呼ぶこともあります。このように利根川は地元の人から愛され、親しまれる存在であるといえると思います。そして私はそんな利根川が好きです。川遊びはしませんでした、利根川の風景はいまでも

思い出されます。私の場合は利根川のみを好きなのではなく、その周りにある群馬の空気や山、風、鳥たちなどと溶け合っている利根川が好きなのだと思います。東京に来てから利根川のような大きな川を見なくなってしまいました。野川のような小さな川も好きですが、利根川の雄大で大きく開けている景色を時々恋しく思う時があります。いつまでも私が好きな利根川であるよう、ずっと市民の人から愛される利根川であってほしいと願っています。

出典

北橘温泉 坂東の湯 ホームページ <http://www.bandounoyu.com/>

ウィキペディア 利根川

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%88%A9%E6%A0%B9%E5%B7%9D>

国土交通省 関東地方整備局 利根川上流河川事務所

<http://www.ktr.mlit.go.jp/tonejo/index.htm>